

2016年1月21日

## パリミッション 報告

目的：テロ後の観光客復活のための官民合同ミッション。JATAとしては安全対策の確認とリカバリー・プロモーションへの協力体制の構築。観光庁、JNTOは日仏双方向の観光促進キャンペーンの道筋を付けること。

訪問地：パリ

スケジュール：

- 1月15日 09:30～ 献花：バタ克蘭劇場前広場（民間）  
10:00～11:00 フランス外務・国際開発付 貿易・観光振興・在外フランス人担当大臣（Mathias Fekl 大臣）との面談  
11:30～12:30 パリ警察署訪問  
14:30～16:00 日仏意見交換会  
テーマ：ツーリズムマーケットにおけるフランスの現状について  
16:15～17:15 記者会見（民間）  
1月16日 午前 シトロエン2CVに分乗して、パリ市内の視察

- 訪問団：団長 古澤ゆり 観光庁審議官  
副団長 菊間潤吾 一般社団法人日本旅行業協会（JATA）副会長  
／株式会社ワールド航空サービス 代表取締役会長  
飯島伸二 株式会社ジャルパック  
執行役員 海外企画商品事業本部長  
池畑孝治 KNT-CT ホールディングス株式会社 執行役員  
稲田健也 全日本空輸株式会社 上席執行役員  
井上 聡 株式会社JTBワールドバケーションズ 代表取締役社長  
越智良典 一般社団法人日本旅行業協会 理事・事務局長  
河田守弘 日本政府観光局（JNTO）総括理事  
今野淳子 株式会社ミキ・ツーリスト 取締役執行役員  
末永安生 株式会社ジェイティービー 専務取締役  
中村 晃 ANA セールス株式会社 取締役副社長  
中山鉄男 株式会社阪急交通社  
東日本営業本部メディア営業二部執行役員部長  
藤田直志 日本航空株式会社  
取締役専務執行役員旅客販売総括本部長

他

記録：

1. バタ克蘭劇場前広場で献花)

20 カ国以上の人がコンサートに参加中に被害に会い、供えられた写真や国旗が被害の痛ましさを示していた。ネットではイスラエル公演を控えていたことも襲撃理由と紹介



2. 外務・国際開発省訪問

面会者：ピエール官房長（マティアス・フェクル外務・国際開発大臣付貿易・観光振興在外フランス人担当大臣の代理）

場 所：タペストリーの産地にちなんだ  
「ゴーベの間」

1855年パリ条約、1917年パリ講和会議を締結した格式ある場所

ピエール氏の発言：

警戒を厳しくし、万全の体制を敷いている点や生活や観光が正常化している点を見て欲しい。安全を含めたサービスレベルの基準が高い日本の消費者に戻って欲しい。この機会に有名な観光地以外で安全で魅力がある「地方」の観光促進、自転車による観光、スロートーリズム、夏山を楽しむ、生活をじっくり見るなど新しい観光に取り組んで欲しい。

補足として、各国の復活状況は、アメリカはじめ各国は戻っていて、日本が課題となっている。キャンペーン展開はATOUT FRANCE, 警備状況についてはパリ警察で詳細の説明がある旨のコメントがあった。



古澤審議官（団長）の発言：

お礼とお悔やみと目的（日本人観光客の需要回復）を説明。要望事項として日本人の安全確保と安全情報の提供、報告事項としてATOUT FRANCE と JNTO で共同キャンペーンを検討中であることと、旅行業界で共通ロゴを作ってキャンペーンを予定していることを報告。相互交流の大切さと観光促進への決意を述べた。

3. パリ警視庁

面会者：ラトロン警視総監官房長、コーウェル係長補佐、モルジェ警部、フリュムベール広報担当官

場 所：事件発生時の緊急オペレーションセンターの隣の特別会議室

概 要：（1）観光客への安全対策、（2）テロ対策、（3）広報、（4）オペレーションセンターの見学を行う観光客の安全対策を国別にきめ細かく行い、日本人観光客への対策も行う

れている。テロの対策は大幅に強化されており非常事態宣言がリスクを示すものではなく、テロ対策の手段であることの説明があった。また、オペレーションセンターを訪問、1300箇所 の監視カメラによるモニターの様子を見学した。



詳細報告：

(1) 観光客の安全対策

- ・管轄：パリ 650 万人、首都圏 2200 万人、5000 万人の国際観光客  
→国際観光都市パリならではの課題
- ・2015 年 軽犯罪は減少した

(2) テロ対策

- ・2015 年 1 月、11 月の事件を受けて警察に加え軍隊を動員して  
1 月で 4000 名配備、11 月以降 6500 名を首都圏に配備  
テロ関係予算 (ハードのみ) 3000 万 EURO 2 年間
- ・重点警戒地区
  - ①ユダヤ教施設
  - ②観光施設：エッフェル塔、ノートルダム、シャンゼリゼ、百貨店
  - ③空港および空港からの交通機関
- ・警備要員配置と監視カメラの設置
- ・司法警察も加わる 情報収集、捜査、人物監視を実施

11 月の後の非常事態宣言以降

- ・知事に捜査権を与える (知事が警察に権限をもつ)
  - ①家宅捜査 全国で 638 件
  - ②自宅軟禁 一日 3 回の警察への出頭が条件 119 名
  - ③情報収集 電話盗聴とネットの監視

※非常事態宣言はリスクを示すインディケーターではなく、テロ対策の特別な手段を可能にするものである。非常事態宣言を解くのは大統領と議会の仕事で現在検討中。ただし、解除後も安全対策を強化するために権限を強化する方向で検討中。なお、非常事態宣言は 2005 年のパリ郊外の暴動事件の際も出された。

※テロの危機はヨーロッパ全体に存在する。出先機関が狙われるリスクが一番高い。フランスはテロの被害を最も受けている国であることは間違いないが、その対策に他のどの国に比べても一番力を入れている国である。

※アジア特に中国、日本、韓国の大使館とは会合を開き、連絡を取りあっている。

(3) アジア人の安全対策 (アジアからのツーリストの軽犯罪を減らす為の取り組み)

警戒地域：エッフェル塔、ノートルダム、シャンゼリゼ、オペラ、モンマルトル、ルーブル、トロカデロの7箇所の観光地と宿泊先

これ以外にバトームッシュの警備チーム。駅、地下鉄、RER。パトロールの強化：1日2、3回→15回へ

観光業者との連携：啓蒙パンフレットの配布、会合、ホテルへの監査

被害者の受け入れ：16ヶ国語対応の会話ソフトや被害届け書類を警察官が携行して、出頭せずともいいようにしている。夏は移動警察署を設ける。2015年から東洋語学院と提携して、日本語を話す学生を同行させている。ホテルでは団体バスの到着時、出発時の盗難被害が多いので警備を強化している。

結果：2014年と2015年の比較

7つの地区の暴行・窃盗被害△16%、すり△25% 年間1000件減少

エッフェル塔界限は◎ オペラ座界限は×

日本人被害 2447名→1911名 (パリ、パリ近郊) すり37%減少  
パトロール効果が発揮された

(4) 広報対策

①軽犯罪被害防止のために日本語パンフレットを作成している。HPでも読める。機内でも上映できるようにしたい。

②警察官自演で観光客が被害にあう実例を紹介したビデオを2ヶ月前に作成した著作権開放している。

わかりやすいビデオで外務省HPの掲載や安心安全部会で紹介したい。USBあり。

4. 意見交換会

場所：SCRIBE HOTEL 会議室

(1) ATOUT FRANCE：マンテイ ジェネラル・マネージャー

日仏交流の歴史、双方とも遺産も豊かで友好関係が良好 2014年80万人。日本のツーリストは要求レベルが高い。フランス人の知らないよい所も知っている。工芸、美食へ関心が高い。トップシェフ1000名に日本人が上位に入っている。パリだけでなく地方の魅力を知っていただくチャンス。

美しい村30選にアルザス、ピレネーの2箇所が選ばれ、その魅力を知る 菊間さんが訪問すること感謝。

(2) 古澤審議官

前掲

### (3) 菊間副会長

- ・双方は運命共同体。成果がだせる意見交換をしよう
  - ・現状紹介（取り消し 280000名、4-5月のオンシーズンの予約低迷50%台が問題
  - ・日本マーケットの説明：安心安全志向、成熟しているが旅行会社のパッケージツアー依存度が高い。
  - ・打開策：安全な環境の実現。パリ警察の取り組み、国別の対応やテロ警戒策に感動した。  
NYCテロ以降の事件で、リカバリーキャンペーンをタイミングよくやることで、半年で80%まで持っていける。フランスの回復がヨーロッパの回復につながる。今回の団には業界のキーパーソンが集まった。業界の期待も大きい。
  - ・要望
    - ①パリ市長、首相からのメッセージ 広告やパンフレットに使える
    - ②夏までの期間限定サービスの提供（企画材料）
    - ③下記スケジュールでプロモーション展開する予定
  - ・プロモーション（案）
    - ①2月上旬 記者会見（業界紙）
    - ②3月 BtoC 大旅行説明会
    - ③9月 ツーリズム EXPO ジャパンで大フランス展で各地の魅力説明  
国際会議でフランスの取り組みを世界に発信  
ベルギーでETC会長にも出席要請  
※リカバリープランの英文資料、EXPOの英文レポートと開催案内、国際会議報告書を配布した
- ※ATOUT FRANCE：マンテイ ジェネラル・マネージャーは要望に予算を含めて全面協力する。ツーリズム EXPO ジャパンへの来日も約束。

#### 以下発言メモ

- (4) エールフランス KLM ジスカール・DESTAN 役員、  
ヴァノヴェメール日本支社長
  - ・ATOUT FRANCE と戦略的パートナーとなっている
  - ・CDGハブで地方路線を活用して地方のプロモーションに協力したい
  - ・4月のランデブーフランスに日本の旅行会社向けに招待枠を拡大したい
- (5) アコーホテル コバルスキー ジェネラルマネージャー
  - ・18万人のメガホテルチェーン
  - ・今回の宿泊先 Scribe も提供

- ・日本市場重視のサービス 朝食での和食、日本語スタッフ、TV、新聞等
- ・1月からフランスに来て下さいキャンペーン実施中

(6) JTB 末永常務取締役

市場動向:ヨーロッパはテロから4週間から増加に転じた。フランスは5割。

- ・2016年4月からのルック JTBは商品の品揃えは例年通りとした。
- ・フランスでは特別企画で凱旋門貸切、モンサミッシェル貸切、ロワール地方、南西フランスPR。美しい村農地二つを商品化。
- ・夏はチャーターやクルーズにも取り組む予定。
- ・要望は安全確保、正しい情報、新しい情報、前向きな情報の提供
- ・平和を生み出す、取り戻すのも旅行が平和産業である所以
- ・インアウトの双方向交流を進め4月、5月に復活するようにがんばろう

(7) パリ・イルド・フランス観光局 ナヴァロ局長

- ・パリは50万人が観光産業に従事して影響が大きい
- ・印象派にちなんだ場所が数多くあり企画に使える

(8) パリ観光局 ルフェブル局長

日本は歴史的にも人数的にも大切。質の高いサービスを要求する、安全に敏感な顧客。復活に必要な施策は以下の二つ。

- ①安全確保と当局の情報提供が必要。非常事態宣言の実態の説明も必要。
- ②普通に日常生活を送っていることを旅行会社やジャーナリストを通じて発信していくこと

(9) レイルフランス モレル CEO

警備を強化している。

(10) ギャラリー・ラファイエット アルノ日本担当

警備を強化している。また、日常が戻っていることを日本メディアに広報。日本市場はベンチマーク的存在である。洗練された日本人をひきつけるために専門スタッフを用意してチャレンジしている。

→主要百貨店および大型高級ホテルはセキュリティ・ゲートを設けて警備を行っている。

(11) バトールパリジャン ジョルジェン 営業担当

11月から特別対策開始。乗船チェック、日本人スタッフ乗船。

(12) ルーブル博物館 ジロー渉外担当

警察との連携強化

(13) 国立歴史建造物センター ルフェーブル ジェネラル・マネージャー

- ・モンサミッシェル改築中、まもなく整備完了。
- ・99箇所 of 史跡を管理していて、特別受け入れが可能
- ・ツールドフランスの出発点がモンサミッシェル

(14) シテイビジョン グレゾバリエール 国際セールスマネージャー

- ・CITIRAMA と PARIS VISION が合体し、1990年から個人客対象に営業。
- ・割引キャンペーン実施中。旅行会社のパリ事務所を通じて正しい情

報を流して欲しい

- (15) カトル・ルー・スー・アン・パアプル社 ダル二社長
  - ・シトロエンを使って忘れられない体験を提供したい。
  - ・先取りフランスで紹介→1月16日に団員がパリ観光を体験。大好評。
  - ・パリと美しい村のランスを結ぶツアーも可能。日本語の出来るドライバーも養成する
- (16) アルザス地方観光局 フィシェール会長
  - ・Xmas イベントでも安全対策をとった
  - ・ストラスブールやモンナムールなど魅力ある町が多い
  - ・バレンタインを記念したキャンペーンを行う
- (17) ミディピレネー地方観光局 グラン会長
  - ・2012年にフランス人に好かれる町に選ばれた
  - ・世界遺産アルビーやロートレックの美術館など見所多い
  - ・ラグビーが盛んで2019年までに親善交流で盛り上げられるのでは？
- (18) JAL 藤田専務
  - ・現状は成田を二便から一便に減便中。百聞は一見にしかず。機内誌での特集やFAM ツアーへの協力など航空会社としてバックアップする。
  - ・路線維持には双方向の需要があるとリスクが減らせる。
  - ・日本の消費者教育も必要。自分の身は自分で守る。精神的に強い消費者を育てて、積極的に海外に出かけるように育てたい。
- (19) 航空局古谷氏  
AF60年の行、路線維持に感謝

## 6. 記者会見

<別添資料参照>

## 7. エールフランス KLM 本社訪問

### (1) CEO

- ・そろそろ戻ってきて欲しい。国を挙げて警備していることを理解して欲しい。
- ・世界で情勢に緊張感がある地区にも飛ばしており、安全には配慮している
- ・困難な時期に一体となって訪問してくれたことに感謝
- ・空港も町も万全の体制で臨んでいる

### (2) 古澤審議官

60年間架け橋になっていることに感謝。苦しいときも路線維持してもらい感謝

(3) 航空局古谷氏

- ・関西空港の経営に参加するバンシー空港会社を訪問
- ・60年間の路線維持に感謝

(4) 菊間副会長

- ・旅行業界と友好関係に感謝。チームヨーロッパのリーダー的活躍に感謝。
- ・リカバリーにも力を貸して欲しい。

(5) AF パトリックサンデル

- ・65年間のつきあい。日本人に愛される会社を目指している。最良のプロダクトをいち早く届ける。
- ・パートナーシップを基にした努力をしたい。

8. パリ素材体験

(1) フラゴナール香水博物館

地下の劇場後を改装して、香水の歴史や製造法を展示している。また、フラゴナール社の製品の歴史や宣伝物、ラベルなどもわかりやすい解説付きで見学できる。2階の売店でテストイングをしながら、商品選びもでき、昨年オープン以来、日本の女性の団体などに人気のスポット。

(2) カトル・ルー・スー・アン・パアプル社

シトロエン観光体験乗車、可愛い車のために、観光中に町行く人から注目の的になる。

小回りがきくためシテ島やサンルイ島の細い路地に入り込んで、生活ぶりを見ることが出来る。大型バスの入らないモンマルトルにもスイスイいける。オープントップで下から見上げるパリの街は、人の目線に近く印象的で大好評。映画007にも登場した。

現在46台で、今後パリと美しい村のランスを結ぶツアーも検討。

日本語の出来るドライバーも養成する予定。

冬場は毛布支給、寒さが我慢できなければ屋根を締めること可能。

(3) その他

- ・博物館（ルーブル、オランジェリールなど）、高級ホテル（ルグラン、インターコンチネンタル）、百貨店（ギャラリー・ラファイエット）などはセキュリティ・ゲートを設けてチェックしている。
- ・町は買い物客や観光客で賑わっていた。

以上



別添

2016年1月21日

パリミッション 記者会見

日時：2016年1月15日

場所：SCRIBE HOTEL 会議室（パリ）

メンバー：

日本側 菊間 JATA 副会長

フランス側 ATOUT FRANCE マンテイ ジェネラル・マネージャー

パリ・イルド・フランス観光局 ダヴィット・ドゥイエ会長  
(柔道家として国民的英雄になり、現在国会議員、スポーツ相  
オリンピック2連覇、4度の世界チャンピオン、日本ではシドニ  
ー五輪、篠原との決勝戦が有名)

パリ観光局 ルフェーブル局長

アコーホテル カローネ氏

アルザス地方観光局 フィシェール会長

ミディピレネー地方観光局 グラン会長

日本の民間の取り組みを紹介する。

外務省の要請で観光庁は出席せず。海外メディアを通じて I S を  
刺激しないとの配慮（添付資料のみ配布）

出席者の発言：

(1) ATOUT FRANCE： マンテイ ジェネラル・マネージャー

日仏交流の歴史、双方とも遺産も豊かで友好関係が良好

2014年80万人。日本のツーリストは要求レベルが高い。フランス人の  
知らないよい所も知っている。工芸、美食へ関心  
が高い。トップシェフ1000名に日本人が上位に  
入っている。パリだけでなく地方の魅力を知って  
いただくチャンス。JATAの「美しい村30選」に  
アルザス、ピレネーの2箇所が選ばれた。

今回日本市場復活のために官民で団を編成していただいた。記者会見に  
出席の菊間副会長はフランスの良さをよく知り、本も出版している方。  
後で日本の取り組みを紹介して頂く。

まず、柔道家で日本にも詳しい国会議員のダヴィット・ドゥイエ氏に話し



て頂く。

(2) パリ・イルド・フランス観光局 ダヴィット・ドゥイエ会長

今日は観光局の会長の立場で出席した。

1985年日本の柔道と出会った。試合の後、勝敗に関係なく仲間として接する態度など、その素晴らしさに魅了された。

テロの後、現在は1200万人が平穏に生活していることを強調したい。

TV NEWSは事件の当時の映像を繰り返し放映して不安を煽っているがこれはテロリストの思う壺だ。いまやテロをまぬかれる国はない。フランスはどの国より治安対策を行っている。イスラム過激派は弱体化してきている。日本にも行って説明したい。柔道での交流も通じ、両国の親善関係を繁栄させる為、親善大使の役割を果す。

(3) パリ観光局 ルフェーブル局長

昨年までアジアからの観光客で日本はトップだった。日本は歴史的にも人数的にも大切。質の高いサービスを要求する、安全に敏感な顧客。

他の国に比べてマイナスのふり幅が大きい。パリは警備が施され、また通常営業であることを伝えて欲しい。

(4) アコーホテル カローネ氏

日本人観光客は三分の二がパリ、イルドフランスで、三分の二はモンサミシェル、コートダジュール、アルザスで質が高いことが特徴。

パリではScribeなどSofitel Ibisチェーンを利用している。

アコーは朝食での和食、日本語スタッフ、TV、新聞等を提供。

お辞儀の仕方も教えるなど日本を重視したサービスを行っている。

1月からフランスに来て下さいキャンペーン実施中

(5) アルザス地方観光局 フィシェール会長

日本とアルザスは長い恋愛関係。日本人は年間45万人が訪問。

一ヶ月滞在する人もいる。ソニーの森田氏、成城学園などゆかりの方も多い。宮崎監督の「ハウルの動く城」はコルマールが舞台。

JATA「美しい村30選」にも選ばれた。また、新しい魅力として、ミシェラン星付きシェフ27人のワインルートをプロモーション中。

ストラスブールやモンナムールなど魅力ある町を、バレンタインを記念したキャンペーンでPRするために2月に日本を訪問予定。

(6) ミディピレネー地方観光局 グラン会長

2012年にフランス人に好かれる町に選ばれ、今回「美しい村30選」にも選ばれた。パリの後で、訪問してくれることに感謝。

世界遺産アルビーやロートレックの美術館など見所多い

4月の「ランデブー・フランス」で大いにPRしたい。

ラグビーが盛んで 2019 年までに親善交流で盛り上げたい。

(7) 菊間副会長

- ・双方は運命共同体。成果がだせる意見交換をしよう
- ・現状紹介（取り消し 28000 名、4-5 月のオンシーズンの予約低迷 50% 台が問題
- ・日本マーケットの説明：安心安全志向、成熟しているが旅行会社のパッケージ依存度が高い。
- ・打開策：安全な環境の実現。パリ警察の取り組み、国別の対応やテロ警戒策に感動した。NYC テロ以降の事件で、リカバリーキャンペーンをタイミングよくやることで半年で 80% まで持っていける。フランスの回復がヨーロッパの回復につながる。今回の団には業界のキーパーソンが集まった。業界の期待も大きい。
- ・要望：①パリ市長、首相からのメッセージ 広告やパンフレットに使える  
②夏までの期間限定サービスの提供（企画材料）  
③下記スケジュールでプロモーション展開する予定
- ・プロモーション（案）
  - ①2 月上旬 記者会見（業界紙）
  - ②3 月 B toC 大旅行説明会
  - ③9 月 ツーリズム EXPO ジャパンで、大フランス展で各地の魅力説明。国際会議でフランスの取り組みを世界に発信  
ベルギーで ETC 会長にも出席要請

以 上

(参考①)

菊間副会長 記者会見 スピーチ

2016年1月15日

パリ、スクリーブホテル内会議室にて

皆様こんにちは、日本旅行業協会(JATA)副会長の菊間です。本日はご多忙の折、私ども日本からの代表団のためにお集まりいただき誠にありがとうございます。

私どもの今回の訪問の目的は、11月の事件後苦境に立つフランスのツーリズム産業復興に向け、微力ながらお手伝いさせていただきたいということです。

言うまでもなくフランスは世界で最も人気のある観光地のひとつであり、もちろん私ども日本人も例外ではありません。しかしながら、年間にここ数年の平均で約70万人もの日本人が訪れるこの国において、事件後の昨年11月、12月の2カ月間でさえ約4%にあたる2万8000人もの日本人がフランスへの旅行をキャンセルするという事態が続いております。冬のシーズンだからこれで済んだわけですが、2016年に入っても事態は好転せず、多くの旅行会社の夏のベストシーズンに向けての予約状況は極めて低調な状況となっています。ビジネス客は回復していますが、観光客の回復が課題です。

こうした中、昨年末に駐日フランス大使ティエリー・ダナ閣下及び Atout France(フランス観光開発機構)からの要請にもとづき、当地の治安状況、対策の確認を行うとともに、今後の観光需要回復に向けた道筋について関係者の皆様と意見交換を行うため、今回パリを訪問することとなりました。

本日午前中はピエール官房長やパリ市警察幹部と直接お会いし、観光客の安全確保に並々ならぬご尽力をいただいていることを聞き、ここまでされているのかということに感動しました。外国の観光客を国別に対策を立ててまで守ろうとする姿勢にさすが世界一の観光大国という思いを持ちました。

また、ツーリズム関係の方々からの日本人観光客を心から歓迎する熱い言葉を多数いただき、改めてフランスの皆様方に感謝申し上げる次第です。

朝に献花した際、安全の大切さをしみじみ感じました。パリの人々が普通に生活している姿も見ることができました。日本は世界統計でも指折りの安全な国で安心・安全が当たり前のために、安心安全に敏感な国民です。何か海外で事件が起きるとすぐ安全な国内旅行に走ってしまいます。成熟した旅行顧客であるにもかかわらず、旅行会社の企画するパッケージツアーの信頼度は高いので、旅行会社が薦めるから安心だと、私たちの役割は大きいと思います。

帰国後はまず、今回の訪問で得たフランス観光の実情や治安状況・安全対策についての情報を、日本の旅行業界の皆様へ報告したいと考えております。

Atout France(フランス観光開発機構)と日本政府観光局(JNTO)が、双方向の観光交流促進に向けた共同キャンペーンを今後の情勢を踏まえて、検討予定とも聞いていますが、私達旅行業界は帰国後、まず旅行会社が積極的に取り組んでいけるようにセミナーを行います。

次に一般消費者向けのプロモーションを行います。その際はパリだけでなくこの機会にフランスの地方の魅力を紹介していきたいと思います。フランスの復活が、欧州全体への旅行需要の復活も意味しております。欧州全体の観光旅行が完全復活することが、私共が現在目指している、双方向の交流拡大と「交流大国」実現に向けての一番の近道であると信じております。私どもとしましては旅行業界をあげ、需要回復に精一杯取り組んでまいりますので、日本人はもとより世界中からの旅行者の安全確保に向け、フランスの皆様が国を挙げて引き続き治安の維持にご尽力いただきますようお願いいたします。

また日本ではパリだけでなくフランスの地方への旅もとても人気が高くフランス全体への送客を強化するため、明日より、ミディ・ピレネー地方とアルザス地方を訪ね、治安状態なども視察し、観光関係者の皆様とも意見交換をする予定となっております。この2つの地方を選んだのは、日本の300名の旅行のプロが選んだ「ヨーロッパの美しい村30選」でミディ・ピレネーのサンシル・ラ・ポピーとアルザスのリクヴィールが選出され、2016年より日本でも脚光を浴びる地方になるからです。

JATAでは「チームヨーロッパ」のプロジェクトを通じて、様々な角度で人気 destinations に偏りがちな企画を正し、田舎の魅力を取り上げることで欧州市場の需要創造につながればと考えております。

私達が信念を持って、フランスを、ヨーロッパを、旅行先としてお勧めできるよう、引き続き安全対策に万全を期していただきたいと願っております。

(参考②)

旅行需要回復に向けたフランス訪問について

2016年1月15日  
日本国国土交通省観光庁  
日本旅行業協会(JATA)

双方向の観光交流拡大は、両国に経済的、社会的利益をもたらすのみならず、両国国民間の文化交流や相互理解を深める等、非常に重要な役割を担っています。しかし、現在、フランスを訪れる日本人観光客が大幅に減少しております。

こうした中、昨年末に駐日フランス大使及び Atout France(フランス観光開発機構) 総裁から要請があったのに呼応し、今般、現地の治安状況・対策の確認を行うとともに観光需要回復に向けた道筋について意見交換を行うため、パリを訪問しました。

訪問中、フェケル外務・国際開発大臣付 貿易・観光推進・在外フランス人担当長官との面談やパリ市警察署への訪問、日仏間の官民意見交換を通じ、現地における緊急事態宣言下の治安対策の状況や観光需要回復に向けたフランス側の取組についてお聞きしました。

正確な情報の把握は安全対策の第一歩ですが、引き続きフランス側からフランス観光の状況や治安状況等に関する情報提供を受け、その内容やフランスを訪れる際の必要な安全対策についても日本国内で発信していく予定です。

また、今後緊急事態宣言の解除後、安全上の問題が生じなければ、Atout France と日本政府観光局(JNTO)との連携による双方向の観光交流促進に向けた共同キャンペーンを検討予定です。

日本の旅行業界としても、フランスをはじめとするヨーロッパへの観光需要回復のため、一般消費者を対象としたイベント・旅行相談会を開催することを検討予定です。

私どもとしては、十分に安全が確保された上でフランスへの日本人観光客の旅行需要が回復し、日本とフランスとの観光交流がより一層促進されることを期待しています。